

PRIMERGY BX924 S4 用 D3143 BIOS セットアップユーティリティ

リファレンスマニュアル

DIN EN ISO 9001:2008 に準拠した 認証を取得

高い品質とお客様の使いやすさが常に確保されるように、
このマニュアルは、DIN EN ISO 9001:2008
基準の要件に準拠した品質管理システムの規定を
満たすように作成されました。

cognitas. Gesellschaft für Technik-Dokumentation mbH
www.cognitas.de

著作権および商標

Copyright © 2013 Fujitsu Technology Solutions GmbH.

All rights reserved.

お届けまでの日数は在庫状況によって異なります。技術的修正の権利を有します。

使用されているハードウェア名およびソフトウェア名は、各社の商標です。

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

Microsoft、Windows、Windows Server、および Hyper V は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Intel、インテルおよび Xeon は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。また、『安全上のご注意』および当マニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

電波障害対策について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

アルミ電解コンデンサについて

本製品のプリント板ユニットやマウス、キーボードに使用しているアルミ電解コンデンサは寿命部品であり、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因になる場合があります。

目安として、通常のオフィス環境（25℃）で使用された場合には、保守サポート期間内（5年）には寿命に至らないものと想定していますが、高温環境下での稼働等、お客様のご使用環境によっては、より短時間で寿命に至る場合があります。寿命を超えた部品について、交換が可能な場合は、有償にて対応させていただきます。なお、上記はあくまで目安であり、保守サポート期間内に故障しないことをお約束するものではありません。

ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的な用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

瞬時電圧低下対策について

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

(社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA) のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

外国為替及び外国貿易法に基づく特定技術について

当社のドキュメントには「外国為替及び外国貿易法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

高調波電流規格について

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

日本市場の場合のみ：

SATA ハードディスクドライブについて

このサーバの SATA バージョンは、SATA/BC-SATA ストレージインタフェースを搭載したハードディスクドライブをサポートしています。ご使用のハードディスクドライブのタイプによって使用方法と動作条件が異なりますので、ご注意ください。

使用できるタイプのハードディスクドライブの使用方法と動作条件の詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/harddisk/>

目次

1 はじめに 7

2 BIOS セットアップユーティリティの操作方法 9

2.1 BIOS セットアップユーティリティを開く 9

2.2 Boot メニューを直ちに開く 9

2.3 画面設計 11

2.4 BIOS セットアップユーティリティを終了する 12

3 Main メニュー 13

4 アドバンスメニュー 15

4.1 PCI Subsystem Settings 17

4.2 Trusted Computing 19

4.3 CPU Configuration 20

4.4 Memory Configuration 28

4.5 USB Configuration 31

4.5.1 USB Port Security 32

4.6 Onboard Devices Configuration 33

4.7 Memory Status 35

4.8 インテルメザニンカードのオプション ROM 設定 36

4.9 Super IO Configuration 37

4.9.1 Serial Port 1 Configuration 37

4.10 Network Stack 38

4.11 CPU Status 39

4.12 PCI Status 40

4.13 Option ROM Configuration 40

目次

5	Security メニュー	41
6	Power メニュー	45
6.1	Wake-Up Resources	46
7	Server Mgmt メニュー	47
7.1	Console Redirection (CR)	52
7.2	iRMC LAN Parameters Configuration	53
8	Boot メニュー	57
8.1	CSM Configuration	62
9	Save & Exit メニュー	65
10	Flash BIOS アップデート	67
10.1	Flash Memory Recovery Mode	69
索引		71

1 はじめに

BIOS セットアップユーティリティでは、ご使用のシステムのシステム機能とハードウェア構成を設定します。行った変更は、設定を保存して BIOS セットアップユーティリティを終了すると有効になります。

BIOS セットアップユーティリティの各メニューで、以下の項目の設定を行います。

- *Main* – システム機能
- *Advanced* – 内蔵デバイスのシステム構成
- *Security* – セキュリティ機能
- *Power* – 電源管理機能
- *Server Mgmt* – サーバ管理
- *Boot* – 起動順位の設定
- *Save & Exit* – 保存と終了




設定オプションは、システムのハードウェア構成によって異なります。

そのため、ご使用のシステムの BIOS セットアップユーティリティでは、メニューや特定の設定オプションが使用できない場合や、BIOS バージョンによってメニューの場所が異なる場合があります。

はじめに

表記規定

このマニュアルで使用されているフォントや記号の意味は、以下のとおりです。

イタリック	コマンド、メニュー項目、パス名、およびファイル名
fixed font (固定幅フォント)	システム アウトプット
semi-bold fixed font (セミボールド固定幅フォント)	キーボードで入力する必要があるテキスト
かぎ括弧 (「 」)	章の名前や強調されている用語
二重かぎ括弧 (『 』)	他のマニュアル名など
▶	記載されている順序で行う必要がある作業
	キーボードのキー
	追加情報、注記、ヒント
 注意！	守らなかった場合にお客様の安全、システムの操作性、データのセキュリティを害する事柄

2 BIOS セットアップユーティリティの操作方法

2.1 BIOS セットアップユーティリティを開く

- ▶ システムを起動して、画面に出力が表示されるまで待ちます。
- ▶ ファンクションキー **[F2]** を押します。
- ▶ パスワードが割り当てられている場合は、そのパスワードを入力し、**[Enter]** キーを押して確定します。

BIOS セットアップユーティリティの *Main* メニューが画面に表示されます。

- ▶ システム固有の情報を表示するには、「*System Information*」を選択して **[Enter]** キーを押します。

BIOS のリリース情報が表示されます。

- BIOS release (例 Version R1.3.0)
システムボードの番号 (D3143-B100-A1x など) は、「*Board*」に表示されます。
- ファンクションキー **[F1]** を押します。
一般的なヘルプ情報が表示されます。




Main メニューが表示されない場合

- ファンクションキー **[F2]** を押しても *Main* メニューが表示されない場合は、**[Ctrl] + [Alt] + [Delete]** キーを同時に押してシステムを再起動してから、BIOS セットアップユーティリティを起動します。

2.2 Boot メニューを直ちに開く


「*Boot Option Priorities*」メニュー項目の「*Boot*」メニューで設定した最初のドライブからシステムを起動しない場合に、この機能を使用します。

- ▶ システムを起動して、画面に出力が表示されるまで待ちます。
- ▶ ファンクションキー **[F12]** を押します。
Boot メニューが、ポップアップウィンドウとして表示されます。

- ▶ カーソルキー  または  を使用して OS を起動するドライブを選択し、 キーを押して確定します。選択オプションは、*Boot* メニューと同じです。



選択したオプションは、現在のシステムの起動に適用されます。次のシステム起動時には、*Boot* メニューで行った設定が再び適用されます。

- ▶ BIOS セットアップユーティリティを起動するには、「*Enter Setup*」パラメータを選択し、 キーを押して確定します。

2.3 画面設計

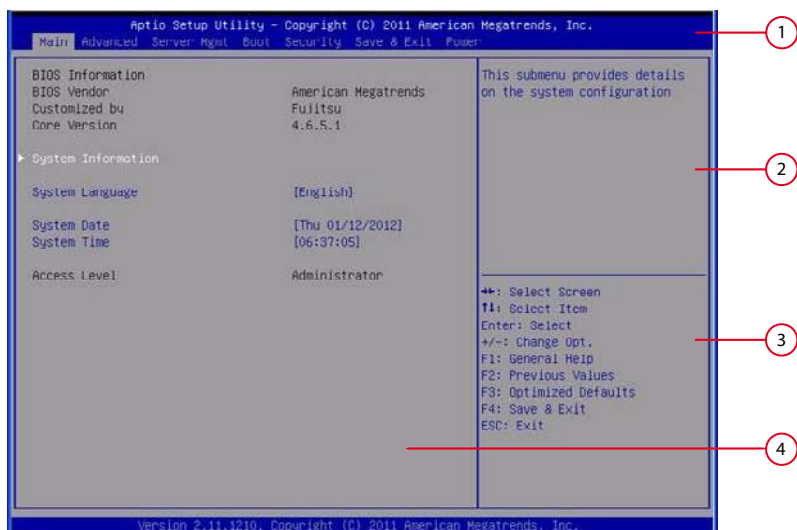


図 1: BIOS セットアップユーティリティの画面の例

BIOS セットアップユーティリティの画面は、以下の領域に分かれています。

1 メニューバー

さまざまな BIOS セットアップユーティリティメニューの選択に使用します。

2 ヘルプ領域

ヘルプ領域には、簡単な情報が表示されます。

3 操作領域

操作領域には、BIOS セットアップユーティリティで使用できるキーがリストアップされます。

4 作業領域

作業領域には、選択したメニューのパラメータが現在の値と共に表示されます。パラメータ値は要件に従って変更できます（適切なフィールドがグレー表示されていない場合）。

- ▶ サブメニューがあるパラメータを示します。

2.4 BIOS セットアップユーティリティを終了する

- ▶ 「*Save & Exit*」メニューで、必要なパラメータを選択して **[Enter]** キーを押します。

3 Main メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。



図 2: 「Main」メニューの例

System Information

「System Information」ウィンドウに、システム構成に関する概要が表示されます。これには、CPU、メモリ、および LAN の構成データが含まれます。

System Language

BIOS セットアップユーティリティで使用される言語を定義します。

System Time / System Date

システムに設定されている現在の日付 / 時刻が表示されます。

システム時刻の形式は *HH:MM:SS* で、システム日付の形式は *DOW (day of week)/MM/DD/YYYY* です。

現在の時刻 / 日付設定を変更するには、「*System Time*」 / 「*System Date*」フィールドに、それぞれ新しい時刻と日付を入力します。「*System Time*」および「*System Date*」フィールド内のカーソル移動には **[Tab]** キーを使用します。



システムの電源を切ってから再度投入した後、システム時刻および日付が失われる場合は、リチウムバッテリーが切れているので交換が必要です。

リチウムバッテリーの交換方法については、『PRIMERGY BX924 S4 サーバブレードアップグレード&メンテナンスマニュアル』を参照してください。

Access Level

BIOS セットアップユーティリティの現行のアクセスレベルを表示します。

Administrator

システムがパスワード保護されていない場合、または Administrator パスワードが入力された場合、*Access Level* は Administrator です。

User

User パスワードのみが設定されている場合、ユーザには *User* レベルが付与されます。

Administrator および User パスワードが割り当てられている場合、「*Access Level*」は BIOS セットアップユーティリティの起動に使用されたパスワードに依存します。

4 アドバンスメニュー



注意！

デフォルト設定を変更するのは、特別な目的で変更が必要な場合だけにしてください。このメニューの設定が正しくないと、コンピュータが誤動作する場合があります！

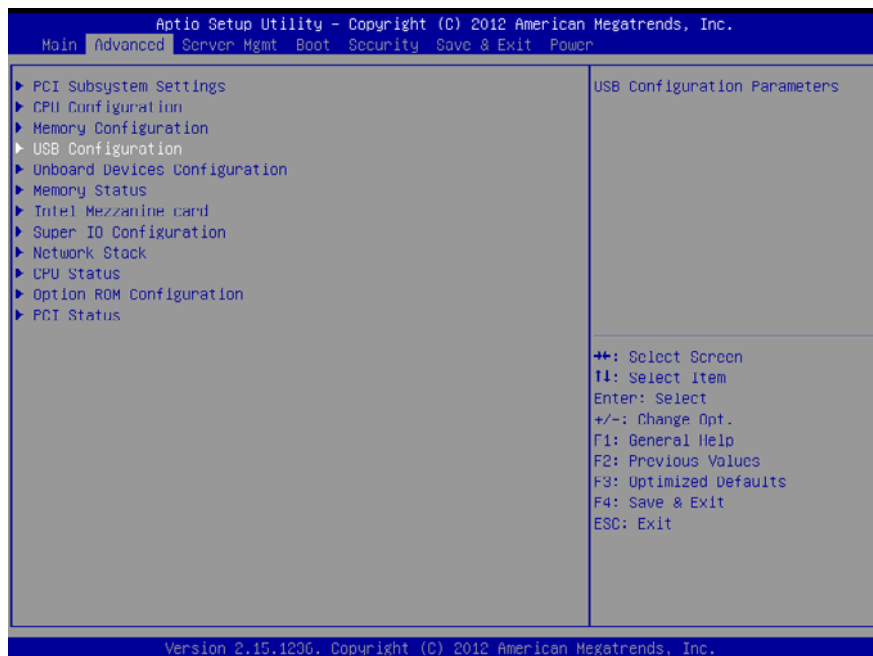


図 3: 「Advanced」メニューの例

PCI Subsystem Settings

システムボードの PCI スロットおよび PCI コンポーネントの設定に使用するサブメニューを呼び出します（[17 ページ](#)の「[PCI Subsystem Settings](#)」を参照）。

Trusted Computing

システムの追加設定に使用するサブメニューを呼び出します（[19 ページ](#)の「[Trusted Computing](#)」を参照）。

CPU Configuration

プロセッサの追加設定に使用するサブメニューを呼び出します
(20 ページの「CPU Configuration」を参照)。

このサブメニューで利用できる設定は、ご使用のプロセッサによって異なります。

Memory Configuration

メモリサブシステムのセットアップに使用するサブメニューを呼び出します (28 ページの「Memory Configuration」を参照)。

USB Configuration

システムボードの USB コンポーネントの設定に使用するサブメニューを呼び出します (31 ページの「USB Configuration」を参照)。

Onboard Devices Configuration

オンボードデバイスの設定に使用するサブメニューを呼び出します。
一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります (33 ページの「Onboard Devices Configuration」を参照)。

Intel mezzanine card

インテルメザニンカードの設定に使用するサブメニューを呼び出します。
一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります (36 ページの「インテルメザニンカードのオプション ROM 設定」を参照)。

Memory Status

メモリモジュールのステータスの確認に使用するサブメニューを呼び出します (35 ページの「Memory Status」を参照)。

Super IO Configuration

システムスーパー IO チップパラメータの設定に使用するサブメニューを呼び出します (37 ページの「Super IO Configuration」を参照)。

Network Stack

UEFI ネットワークスタックのセットアップに使用するサブメニューを呼び出します (38 ページの「Network Stack」を参照)。

CPU Status

プロセッサのステータスの確認に使用するサブメニューを呼び出します (39 ページの「CPU Status」を参照)。

Option ROM Configuration

シリアルポート 0 の設定に使用するサブメニューを呼び出します
(40 ページの「Option ROM Configuration」を参照)。

PCI Status

PCI Express 拡張カードのステータスの確認に使用するサブメニューを呼び出します（40 ページの「PCI Status」を参照）。

4.1 PCI Subsystem Settings

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

ASPM Support

PCI Express リンクの電源管理に Active State Power Management (ASPM) が使用されます。ASPM はこの設定によって全般的に有効になっていても、該当する PCI Express 拡張カードまたはオンボードコントローラも ASPM をサポートしている場合にのみ特定のリンクに対して有効になります。

Disabled

ASPM が無効になります。PCI Express リンクの消費電力は低下しません。互換性は最大です。

Auto

省電力を最大化されるように設定しようとします。PCI Express リンクの低電力モードは L0s（単方向）または L1（双方向）に設定されます。

Limit to L0s

PCI Express リンクの低電力モードは L0s（単方向）に設定されます。互換性は低下しますが、省電力機能は高まります。



ASPM が無効になっていない場合、PCI Express デバイスのレイテンシが長くなることがあります。複数の拡張カードを使用した場合、この機能は正しくサポートされず、未定義のシステム動作が発生することがあります。

Above 4G Decoding

4 GB のアドレス境界を超えるメモリリソースを PCI デバイスに割り当てることができるかどうかを指定します。選択肢は、オペレーティングシステムと取り付けられているアダプタカードによって決まります。

Disabled

4 GB のアドレス境界未満のメモリリソースのみ、PCI デバイスに割り当てられます。この選択肢は、32 ビットオペレーティングシステムを使用している場合に必須ですが、64 ビットオペレーティングシステムでもサポートされます。

Enabled

4 GB のアドレス境界を超えるメモリリソースを PCI デバイスに割り当てることができ、64 ビットのアドレスデコーディングが可能です。この選択肢は、64 ビットオペレーティングシステムでのみサポートされます。取り付けられた PCI Express デバイス（コプロセッサアダプタカード）が大容量のメモリリソースを要求している場合に必要な場合があり、4 GB のアドレス境界未満のアドレス空間に適合しなくなります。



32 ビットオペレーティングシステムの PCI アドレスデコーディングは、使用可能な PCI デバイスが 64 ビットのアドレスデコーディングをサポートしていても、4 GB のアドレス境界による制限を受けます。

Consistent Device Naming

シャーンに印刷されるデバイス名、またはシステムセットアップ時のデバイス名（「Slot 1」など）もオペレーティングシステムに報告するかどうかを指定します。オペレーティングシステムは、このデバイス名をユーザの通信に使用します。これにより、ケーブル配線エラーを回避して、信頼性を向上させることができます。

Disabled

デバイス名は、オペレーティングシステムに報告されません。

Enabled

デバイス名は、オペレーティングシステムに報告されます。

DMI Control

CPU とチップセット間のバス接続速度を選択します。速度が遅いほど消費電力が少なくなりますが、システムパフォーマンスも低下します。

GEN1

CPU とチップセット間のバス接続を設定して 2.5 GT/s で実行します。

GEN2

CPU とチップセット間のバス接続を設定して 5.0 GT/s で実行します。

4.2 Trusted Computing

TPM を有効にするためのサブメニューを開き、TPM を設定します。

このセットアップメニューが表示される場合は、TCG 1.2 仕様に準拠したセキュリティ / 暗号化 (TPM - Trusted Platform Module) チップが、システムボードに搭載されています。このチップはセキュリティ関連のデータ (パスワードなど) を安全に保存できます。TPM の使用は標準化され、Trusted Computing Group (TCG) で規定されています。

TPM Support

TPM (Trusted Platform Module) ハードウェアを使用できるかどうかを指定します。

TPM が無効の場合、システムは TPM ハードウェアのないシステムと同様に動作します。

Disabled

Trusted Platform Module はありません。

Enabled

Trusted Platform Module があります。

TPM State

TPM (Trusted Platform Module) を OS で使用できるかどうかを指定します。

Disabled

Trusted Platform Module は使用できません。

Enabled

Trusted Platform Module を使用できます。

Pending TPM operation

TPM 処理を次回起動時に実行するようにスケジュールします。

None

TPM 処理は実行されません。

Enable Take Ownership

OS が TPM の所有権を取得できるようにします。

Disable Take Ownership

OS が TPM の所有権を取得できないようにします。

TPM Clear

TPM は出荷時のデフォルトにリセットされます。TPM 内のすべてのキーはクリアされます。

Current TPM Status Information

TPM (Trusted Platform Module) の現在の状態を示します。

4.3 CPU Configuration

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

Socket 0 CPU Information

ソケット 0 CPU の情報を表示するサブメニューが開きます。

Socket 1 CPU Information

Socket 1 CPU の情報を表示するサブメニューが開きます。

Hyper-Threading

Hyper-threading Technology は、シングルコアの物理プロセッサを複数の論理プロセッサであるかのように見せかけることができます。このテクノロジーにより、OS によるプロセッサ内部資源の効率的な利用が可能になり、結果的にパフォーマンスが向上します。このテクノロジーの利点を使用できるのは、ACPI をサポートしている OS だけです。この設定は、ACPI をサポートしていない OS には影響を与えません。

Disabled

ACPI OS は、プロセッサコアの最初の論理プロセッサのみを使用できます。この設定は、Hyper-threading Technology が ACPI OS に正しくインプリメントされなかった場合のみ使用してください。

Enabled

ACPI OS は、物理プロセッサ内のすべての論理プロセッサを使用できます。

Active Processor Cores

複数のプロセッサコアが含まれているプロセッサの場合は、有効なプロセッサコアの数を制限できます。有効でないプロセッサコアは使用されず、OS から隠蔽されます。

All

使用可能なすべてのプロセッサコアが有効になり、使用できます。

1...n

選択した数のプロセッサコアのみが有効になります。残りのプロセッサコアは無効になります。



この選択を行うことで、特定のソフトウェアパッケージやシステムライセンスに関する問題が解決される場合があります。

Limit CPU Maximum

プロセッサで呼び出すことができる CPUID 機能の数を指定します。OS によっては、3 つを超える機能をサポートする新しい CPUID コマンドを処理できないものもあります。これらの OS では、このパラメータを有効にする必要があります。

Disabled

すべての CPUID 機能がサポートされます。

Enabled

OS との互換性の理由から、プロセッサでサポートされる CPUID 機能の数が減少します。

Execute Disable Bit

実行可能メモリ領域の保護（ウイルス対策保護）を指定します。この機能は、OS がサポートしている場合のみ有効です。eXecute Disable ビット（XD ビット）は、NX（No eXecute）ビットとも呼ばれます。

Disabled

OS の *Execute Disable* 機能を有効にできないようにします。

Enabled

OS の *Execute Disable* 機能を有効にできるようにします。

Hardware Prefetcher

有効になっている場合、メモリバスが非アクティブになったときに、必要になる可能性のあるメモリ内容が自動的にキャッシュにプリロードされます。メモリではなくキャッシュから内容を読み出すことによって、特にデータへのリニアアクセスを使用するアプリケーションの場合にレイテンシが短縮されます。



このパラメータを使用して、非標準アプリケーションのパフォーマンス設定を変更できます。標準アプリケーションのデフォルト設定に従うことをお勧めします。

Disabled


CPU のハードウェアプリフェッチを無効にします。

Enabled

CPU のハードウェアプリフェッチを有効にします。

Adjacent Cache Line Prefetch

プロセッサのキャッシュ要求時に追加の隣接する 64 バイトキャッシュラインをロードするためのメカニズムがプロセッサに備わっている場合に、このパラメータを使用できます。これによって、空間局所性の高いアプリケーションのキャッシュヒット率が高まります。

 このパラメータを使用して、非標準アプリケーションのパフォーマンス設定を変更できます。標準アプリケーションのデフォルト設定に従うことをお勧めします。

Disabled


プロセッサは、要求されたキャッシュラインをロードします。

Enabled

プロセッサは、要求されたキャッシュラインと隣接キャッシュラインをロードします。

DCU Streamer Prefetcher

有効になっている場合、メモリバスが非アクティブになったときに、必要になる可能性のあるデータ内容が自動的に L1 データキャッシュにプリロードされます。メモリではなくキャッシュから内容を読み出すことによって、特にデータへのリニアアクセスを使用するアプリケーションの場合にレイテンシが短縮されます。

 このパラメータを使用して、非標準アプリケーションのパフォーマンス設定を変更できます。標準アプリケーションのデフォルト設定に従うことをお勧めします。

Disabled


CPU の *DCU Streamer Prefetcher* を無効にします。

Enabled

CPU の *DCU Streamer Prefetcher* を有効にします。

DCU IP Prefetcher

コードがシーケンシャルに編成され、メモリに連続的に格納される場合、パフォーマンスの向上が期待されます。

 このパラメータを使用して、非標準アプリケーションのパフォーマンス設定を変更できます。標準アプリケーションのデフォルト設定に従うことをお勧めします。

Disabled

CPU の *DCU IP Prefetch* を無効にします。

Enabled

CPU の DCU IP Prefetch を有効にします。

Intel Virtualization Technology

仮想コンピュータを使用して複数のソフトウェア環境の使用をサポートするための VMX (Virtual Machine Extensions) に基づいて、プラットフォームのハードウェア環境および複数のソフトウェア環境の仮想化をサポートします。仮想化テクノロジーにより、16 ビット/32 ビット保護モード、および EM64T (インテル® Extended Memory 64 Technology) モードでの仮想化を目的としてプロセッササポートを拡張します。

Disabled

VMM (Virtual Machine Monitor : 仮想マシンモニタ) で、追加のハードウェア機能は使用できません。

Enabled

VMM で、追加のハードウェア機能を使用できます。

Intel (R) VT-d

VT-d (Virtualization Technology for Directed I/O) で、複数の仮想マシン間の共有 I/O デバイスに対してハードウェアサポートを提供します。VMM (仮想マシンモニタ) で、同一の物理 I/O デバイスにアクセスする複数の仮想マシンを管理するための VT-d を使用できます。

Disabled

VT-d が無効になり、VMM で VT-d を使用できません。

Enabled

VMM の VT-d が有効になります。

Power Technology

CPU 電源管理機能を設定します。

Disabled

CPU 電源管理機能が無効になります。

Energy Efficient

CPU 電源管理機能が省電力のために最適化されます。

Custom

CPU 電源管理を設定する追加のセットアップ項目。

Enhanced SpeedStep

プロセッサの電圧と周波数を指定します。EIST (Enhanced Intel SpeedStep® Technology) は省電力機能です。



プロセッサの電圧をそれぞれのシステム要件に適合させます。
クロック周波数を減らすと、システムの消費電力が減少します。

Disabled

Enhanced SpeedStep 機能が無効になります。

Enabled

Enhanced SpeedStep 機能が有効になります。

Turbo Mode

最高のパフォーマンス状態（P0）が OS によって要求される場合に、プロセッサの動作周波数を上げることができます。この機能は、インテル® Turbo Boost Technology とも呼ばれています。

Disabled

Turbo Mode が無効になります。

Enabled

Turbo Mode が有効になります。

Override OS Energy Performance

OS がセットアップのエネルギー効率ポリシーの設定を上書きしないように防止します。

無効

Override OS Energy Performance 機能が無効になります。

Enabled

Override OS Energy Performance 機能が有効になります。

Energy Performance

非レガシーオペレーティングシステムでのプロセッサのエネルギー効率ポリシー。これは、電力消費とパフォーマンスを調整するためのプロセッサへの入力です。

Performance

エネルギー効率を犠牲にしても、パフォーマンスを得る方向に強く最適化します。

Balanced Performance

エネルギーを節約しながら、パフォーマンスを得る方向にウェイトを置きます。

Balanced Energy

良好なパフォーマンスを得ながら、エネルギーを節約する方向にウェイトを置きます。

Energy Efficient

パフォーマンスを犠牲にしても、エネルギー効率を得る方向に強く最適化します。



この電力ポリシーによっても、オペレーティングシステムがセットアップで選択されたモードを使用しないように決定することがあります。また、セットアップが上書きされ、代わりに他のモードのいずれかが選択されることもあります。

Utilization Profile

エネルギーパフォーマンスの割合は異なるシステム使用に最優先できません。

Even

エネルギーとパフォーマンスがバランスのシステム利用に優先される。

Unbalanced

パフォーマンス、アンバランスのシステム利用に優先される。

P-STATE Coordination

OS Power Management (OSPM) に渡されるプロセッサパフォーマンス調整モデル。

HW_ALL

プロセッサハードウェアが、すべての論理プロセッサ間のパフォーマンス状態を調整します (推奨)。

SW_ALL

OSPM が、すべての論理プロセッサ間のパフォーマンス状態を調整します。パフォーマンスの推移は、すべての論理プロセッサで開始される必要があります (推奨しません)。

SW_ANY

OSPM が、すべての論理プロセッサ間のパフォーマンス状態を調整します。パフォーマンスの推移は、いずれかの論理プロセッサで開始できます。

CPU C3 Report

プロセッサの C3 状態を ACPI C-2 として OSPM (OS Power Management) に渡します。

Disabled

CPU C3 は OSPM に提供されません。

Enabled

CPU C3 は OSPM に提供されます。

CPU C6 Report

プロセッサの C6 状態を ACPI C-3 状態として OSPM に提供し、プロセッサの Deep Power Down Technology を有効にします。

Disabled

CPU C6 は ACPI C-3 状態として OSPM に提供されません。

Enabled

CPU C6 は ACPI C-3 状態として OSPM に提供されます。

CPU C7 Report

プロセッサの C7 状態を ACPI C-3 状態として OSPM に提供し、プロセッサの Deep Power Down Technology を有効にします。

無効

CPU C7 は ACPI C-3 状態として OSPM に提供されません。

Enabled

CPU C7 は ACPI C-3 状態として OSPM に提供されます。

Package C State limit

プロセッサの Package C State を制限します。

C0

C0 に制限します。

C2

C2 に制限します。

C6

C6 に制限します。

C7

C7 に制限します。

No limit

Package C State 制限を行いません。

QPI Link Frequency Select

QPI リンクにより、プロセッサが接続されます。プロセッサによって、QPI リンクは互いに異なる速度で動作できます。このパラメータによって、システムでの QPI リンクの速度が制御されます。

Auto

BIOS から、システムに存在するプロセッサに基づいて最大速度が検出されます。

プロセッサがサポートしている場合は、他のいずれかの値を選択して、QPI リンクの速度を明示的に設定します。

QPI Link1 Disable

プロセッサ間に 2 つ以上の QPI Link のあるシステムでは、電力面の利点を得るためにリンクを 1 つ無効にします。

Disabled

両方の QPI Link が動作します。

Enabled

1 つの QPI Link が無効になります。

Frequency Floor Override

ソフトウェアインスタンスが、アイドル状態でもパスできない CPU パッケージの最小周波数を設定できます。

Disabled

ソフトウェアが CPU パッケージの最小周波数を設定できます。

Enabled

ソフトウェアが CPU パッケージの最小周波数を設定できません。

4.4 Memory Configuration

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

Memory Mode

発生しうるエラーへの対処に使用するメモリ容量を予約できます。手順の詳細は、『PRIMERGY BX924 S4 サーバブレードアップグレード & メンテナンスマニュアル』を参照してください。

Independent

エラー処理に追加のメモリ容量を予約しません。

Mirroring

BIOS によって、システムメモリが半分に分割され、メモリ内のすべてのデータが2つ分保持されます。これにより、修正不可能なエラーが発生したときに、システムのクラッシュを防止できます。修正不可能なエラーが発生したまれな状況では、データは1つ目から収集できないため、そのデータは2つ目から直ちに呼び出されます。同時に、メモリエラーが管理者に報告されます。

Sparing

あるメモリランクで修正可能なエラーが発生しすぎるというケースに備えて、BIOS から予備として別のメモリランクが使用されます。修正不可能なエラーが発生する前に、このメモリランクの内容がスペアランクに転送されます。潜在的に故障しているメモリランクは以後、使用されません。この手順は動作中に実行されます。同時に、メモリエラーが管理者に報告されます。

NUMA

NUMA (Non-Uniform Memory Access) はマルチプロセッサシステム向けのメモリアーキテクチャです。各プロセッサは専用のローカルメモリを持ちますが、他のプロセッサのローカルメモリ (共有メモリ) にもアクセスできます。ローカルメモリへのアクセスは、共有メモリへのアクセスよりも高速です。

Disabled

システムメモリ全体がローカルメモリおよび共有メモリの多くの小領域にインターリーブ形式で分割されます。OS によって NUMA がサポートされていない場合に選択してください。

Enabled

システムメモリ全体がローカルメモリおよび共有メモリの多くの小領域に非インターリーブ形式で分割されます。NUMA 対応の ACPI OS との組み合わせで、最善のパフォーマンスを実現できます。

DDR Performance

メモリモジュールは互いに異なる速度（周波数）で動作できます。高速になるほどパフォーマンスが向上し、低速になるほど省電力になります。使用可能なメモリ速度は、取り付けられているメモリモジュールの構成によって異なります。

Low-Voltage optimized

低電圧で可能な最も高速な設定。

Energy optimized

省電力で可能な最も低速な設定。

Performance optimized

最高のパフォーマンスを得るために可能な最も高速な設定。

DRAM Maintenance

ダイナミックランダムアクセスメモリ（DRAM）の信頼性はいくつかの機能によって異なることがあります。設定は自動的、ハードウェア依存、またはユーザー入力によって決めます。

無効

設定はユーザー入力で決めます。

Auto

システムは信頼な DRAM 機能のための必要な設定をきめます。

Patrol Scrub

全メモリをバックグラウンドで定期的にスクリーニングするかどうかを指定します。修正可能なメモリエラーが蓄積して修正不可能なメモリエラーになる前に、修正可能なメモリエラーが検出され、修正されます。

Disabled

バックグラウンドメモリスクリーニングが実行されないため、パフォーマンスが向上します。

Enabled

バックグラウンドメモリスクリーニングが実行されるため、信頼性が向上します。



修正可能なメモリエラーの原因としては、使用環境（高温など）が不適切であることが考えられます。

Fast Patrol Scrub

Patrol Scrub 速度を選択します。Patrol Scrub 速度を高くするとメモリの信頼性が高くなりますが、消費電力が増加してパフォーマンスが低下します。

Disabled

システムメモリ全体のバックグラウンドメモリスクリーニングサイクルは最長丸一日かかることがあり、その結果、パフォーマンスが向上し、消費電力が低減します。

Enabled

システムメモリ全体のバックグラウンドメモリスクリーニングサイクルはほんの数分しかかからず、その結果、信頼性が高くなります。

Refresh Rate Multiplier

標準の DRAM Refresh Rate の乗数を選択します。乗数値を高くするとメモリの信頼性が高くなりますが、消費電力が増加してパフォーマンスが低下します。

1x

標準の DRAM Refresh Rate です。パフォーマンスが向上し、消費電力が低減します。

2x...4x

標準の DRAM Refresh Rate の乗数値です。信頼性が高くなります。

例：「2x」を選択すると、DRAM が同じ期間内に標準の DRAM Refresh Rate の 2 倍の頻度で更新されます。

4.5 USB Configuration

USB Devices

使用できる USB デバイス、USB キーボード、USB マウス、USB ハブの数を表示します。

Legacy USB Support

USB レガシーサポートを利用できるかどうかを指定します。この機能は、OS を USB デバイスから起動する必要がある場合には、有効にするか「Auto」に設定する必要があります。

Disabled

USB レガシーサポートは利用できません。USB キーボードまたは USB マウスは、OS でサポートされている場合にのみ使用できます。OS を USB デバイスから起動することはできません。

Enabled

USB レガシーサポートを利用できます。USB キーボードまたは USB マウスも、USB をサポートしない OS で使用できます。OS を USB デバイスから起動できます。

Auto

USB レガシーサポートは、USB デバイスが接続されていない場合は無効になります。



USB レガシーサポート機能は、OS が USB をサポートし、OS を USB デバイスから起動しない場合には、無効にしてください。

Onboard USB Controllers

システムボードの USB コントローラを有効または無効にできます。オンボード USB コントローラが無効な場合は、接続されるすべての USB デバイスを使用できるわけではありません。ローカル接続されるキーボード、マウス、マスのストレージに加え、iRMC を使用するキーボード、マウス、マスのストレージや、内部接続 USB デバイスも使用できません。

Enabled

オンボード USB コントローラが有効になり、設定に従って動作します。

Disabled

オンボード USB コントローラが無効になります。

Mass Storage Device(s)

ユーザーが特定のデバイスエミュレーションを強制できるようにします。「Auto」が選択されている場合、デバイスのメディア形式に従ってエミュレートされます。光ディスクドライブは「CD-ROM」としてエミュレートされ、メディアのないドライブはドライブタイプに応じてエミュレートされます。

Auto

USB デバイスに応じたエミュレーションが選択されます。

Floppy

USB フロッピーエミュレーションを強制します。

Hard Disk

USB ハードディスクエミュレーションを強制します。

CD-ROM

USB CD-ROM エミュレーションを強制します。

4.5.1 USB Port Security

USB ポートの可用性を設定するサブメニューが開きます。

USB Port Control

USB ポートの使用方法を設定します。無効にされた USB ポートは、POST 中に使用できず、OS でも使用できません。

Enable all ports

すべての USB ポートが有効です。

Enable front and internal ports

すべての前面および内部 USB ポートが有効です。

Enable rear and shared ports

すべての背面および共有 USB ポートが有効です。

Enable internal ports only

内部 USB ポートのみが有効です。

4.6 Onboard Devices Configuration

オンボードデバイスを設定するサブメニューが開きます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

Onboard SAS/SATA (SCU)

SAS/SATA ストレージコントローラユニット (SCU) を有効にするか無効にするかを指定します。この機能が無効になっていると、いかなる OS も SCU を認識できません。

Enabled

SAS/SATA SCU は有効になります。

Disabled

SAS/SATA SCU は無効になります。

SAS/SATA OpROM

BIOS POST 中に適切な Option ROM が起動する場合は、ブートコントローラとして SAS/SATA SCU コントローラを使用できます。このパラメータは、Option ROM を起動するかどうかを指定し、起動する場合は Option ROM のタイプを指定します。レガシー、つまり、非 UEFI Option ROM のみ有効です。選択した Option ROM によって、対応するオペレーティングシステムドライバも必要です。

Disabled

いかなる Option ROM も起動しません。

LSI MegaRAID

LSI による MegaRAID Option ROM を起動します。

Intel RSTe

Intel による RSTe (Rapid Storage Technology enterprise) Option ROM を起動します。

SAS/SATA Driver

SAS/SATA SCU でサポートされるドライバファミリを指定します。ドライバファミリは、関連する Option ROM とオペレーティングシステムドライバで構成されます。選択肢によって、SCU の PCI Device-ID も調整されます。

LSI MegaRAID

SCU は、LSI の MegaRAID ドライバファミリをサポートします。

Intel RSTe

SCU は、Intel の RSTe (Rapid Storage Technology enterprise) Option ROM をサポートします。

Onboard CNA

システムボードで CNA (Converged Network Adapter) が使用可能かどうかを指定します。

Enabled

システムボードで CNA を使用できます。

Disabled

システムボードで CNA を使用できません。

Onboard CNA OpROM

BIOS POST 中に適切な Option ROM が起動されている場合は、ブートデバイスとして CNA (Converged Network Adapter) を使用できます。このパラメータで、CNA のためにオプション ROM を使用するかどうかを指定します。

Enabled

CNA をブートするために ROM を起動します。

Disabled

オプション ROM を起動しません。

High Precision Timer

有効にした場合は、OS が High Precision Event Timer を使用できます。これによって、タイムクリティカルなアプリケーションの要件を満たすことができます。このタイマは、マルチメディアタイマとも呼ばれています。

Enabled

High Precision Timer が有効になります。

Disabled

High Precision Timer が無効になります。

4.7 Memory Status

このサブメニューで、メモリーモジュールが故障していることを示すことができます。少なくとも 1 つの正常なモジュールまたはバンクが使用可能な場合にシステムがリブートされると、故障のあるメモリーモジュールは使用されなくなります。同時に、メモリ容量が少なくなります。

DIMM-xx

メモリーモジュールの現在のステータスを示します。

Enabled

システムはメモリーモジュールを使用します。

Disabled

システムはこのメモリーモジュールを使用しません。手動で使用不能にされました。

Failed

システムはこのメモリーモジュールを使用しません。メモリエラー後に、メモリーモジュールは自動的に使用不能になります。故障のあるメモリーモジュールを交換した場合は、エントリを再び「Enabled」に設定する必要があります。

Empty

メモリーモジュールが搭載されていません。

4.8 インテルメザニンカードのオプション ROM 設定

Slot n LAN1

このポートのオプション ROM 設定を指定します。

Disabled

オプション ROM はこのポートにロードされません。

PXE

PXE オプション ROM がこのポートにロードされます。

iSCSI

iSCSI オプション ROM がこのポートにロードされます。

Slot n LAN2

このポートのオプション ROM 設定を指定します。

Disabled

オプション ROM はこのポートにロードされません。

PXE

PXE オプション ROM がこのポートにロードされます。

iSCSI

iSCSI オプション ROM がこのポートにロードされます。

4.9 Super IO Configuration

システムスーパー IO チップのパラメータを表示します。

Super IO Chip

スーパー IO チップの情報を表示します。

4.9.1 Serial Port 1 Configuration

シリアルポート 1 のパラメータを設定します (COMA)。

Serial Port

シリアルポートを使用できるかどうかを指定します。

Disabled

シリアルポートは使用できません。

Enabled

シリアルポートは使用できます。

Device Settings

該当のシリアルポートへのアクセスに使用するベース I/O アドレスと割り込みを表示します。IO=3F8h; IRQ=4 などです。

Change Settings

該当のシリアルポートへのアクセスに使用するベース I/O アドレスと割り込みを選択します。

Auto

[IO=3F8h; IRQ=4;]

[IO=3F8h; IRQ=3,4,5,6,7,9,10,11,12;]

[IO=2F8h; IRQ=3,4,5,6,7,9,10,11,12;]

[IO=3E8h; IRQ=3,4,5,6,7,9,10,11,12;]

[IO=2E8h; IRQ=3,4,5,6,7,9,10,11,12;]

シリアルポートは、上記のリストから選択されたアドレスと割り込みを使用します。リソースが競合する場合、設定は「Auto」に変更されることがあります。

4.10 Network Stack

Network Stack

UEFI Network Stack を UEFI でネットワークアクセスに使用できるかどうかを設定します。たとえば、UEFI ネットワークスタックを使用できない場合、PXE 経由で UEFI インストールを実行できません。

Disable Link

UEFI ネットワークスタックは使用できません。

Enabled

UEFI ネットワークスタックは使用できます。

Ipv4 PXE Support

オペレーティングシステムのインストールに、Ipv4 による PXE UEFI Boot を UEFI モードで使用できるかどうかを指定します。

Disabled

Ipv4 による PXE UEFI Boot は使用できません。

Enabled

Ipv4 による PXE UEFI Boot を使用できます。

Ipv6 PXE Support

オペレーティングシステムのインストールに、Ipv6 による PXE UEFI Boot を UEFI モードで使用できるかどうかを指定します。

Disabled

Ipv6 による PXE UEFI Boot は使用できません。

Enabled

Ipv6 による PXE UEFI Boot を使用できます。

PXE boot wait time

Esc キーを押して PXE Boot をキャンセルできる待機時間を定義します。

[0...5] sec

PXE Boot をキャンセルできる待機時間。

4.11 CPU Status

CPU_x

プロセッサを使用できるかどうかを指定します。内部誤動作を報告した場合のみ、プロセッサを使用不能にします。この誤動作はエラーログに記録されます。エラーログは、ServerView Operations Manager または iRMC S4 の Web インタフェースを使用して表示できます。

Failed

OS はプロセッサを使用できません。内部誤動作後、プロセッサは自動的に使用不能になります。

Disabled

OS はプロセッサを使用できません。手動で使用不能にされました。

Enabled

OS はプロセッサを使用できます。

Empty

プロセッサが搭載されていません。



CPU_x のステータスを手動で変更した場合、以下のいずれかの操作が必要になります。

- [F4] ファンクションキーを押して、「Yes」を選択します。
- 「Save & Exit」メニューで「Save Changes and Exit」を選択して、「Yes」を選択します。
- 「Save & Exit」メニューで「Save Changes and Reset」を選択して、「Yes」を選択します。

4.12 PCI Status

このサブメニューは、スロット内の拡張カードの現在のステータスを示します。

PCI Slot n

このスロット内の拡張カードの現在のステータスを示します。

Enabled

このスロットに対してエラーが報告されませんでした。このスロット内の拡張カードは、何の制限もなく使用できます。

Failed

このスロットに対してエラーが検出されました。スロット内の拡張カードに問題がある可能性があります。

Empty

このスロット内に拡張カードがありません。

4.13 Option ROM Configuration

「Option ROM Configuration」サブメニューを呼び出します。

Launch Slot n OpROM

このスロットに取り付けられている拡張カードのレガシー Option ROM を起動するかどうかを制御します。

Disabled

拡張カードの Option ROM を起動しません。

Enabled

拡張カードの Option ROM を起動します。

5 Security メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。



図 4: 「Security」メニューの例

Administrator または User パスワードのいずれも割り当てられていない

BIOS セットアップユーティリティの起動およびシステムの起動は制限されません。

Administrator パスワードのみが割り当てられている

Administrator パスワードのみが割り当てられている場合、BIOS セットアップユーティリティは保護されます。システムの起動は制限されません。BIOS セットアップユーティリティを Administrator パスワードで起動する場合、Administrator レベルになり、BIOS セットアップユーティリティへのフルアクセスが得られます。パスワードなしで BIOS セットアップユーティリティを起動すると、User レベルのみが得られるため、BIOS セットアップユーティリティへのアクセスは制限されます。

User パスワードのみが割り当てられている

User パスワードのみが割り当てられている場合、BIOS セットアップユーティリティおよびシステムの起動は User パスワードによって保護されます。User パスワードで BIOS セットアップユーティリティを起動する場合、User は Administrator レベルになり、BIOS セットアップユーティリティへのフルアクセスが得られます。パスワードなしで BIOS セットアップユーティリティを起動することはできません。

Administrator と User パスワードが割り当てられている

Administrator と User パスワードが割り当てられている場合、BIOS セットアップユーティリティの権限は入力したパスワードに依存します。BIOS セットアップユーティリティを Administrator パスワードで起動すると、BIOS セットアップユーティリティへのフルアクセスが付与され、User パスワードを入力するとアクセスは制限されます。システムの起動は、User パスワードでも Administrator パスワードでも可能です。



Administrator パスワードを削除すると、User パスワードも消去されます。

このシステムは、3 回パスワード入力を行うとシャットダウンします。この場合、サーバの電源を入れ直して、正しいパスワードを入力します。

Administrator Password

[Enter] キーを押すとウィンドウが開き、Administrator パスワードを設定することができます。文字列を入力して、パスワードを設定します。パスワードフィールドに何も入力しないで確定すると、パスワードは削除されます。



完全な BIOS セットアップユーティリティを呼び出すには、Administrator のアクセスレベルが必要です。Administrator パスワードが割り当てられている場合、User パスワードには BIOS セットアップユーティリティへの非常に限定的なアクセスのみ許可されます。

User Password

[Enter] キーを押すとウィンドウが開き、User パスワードを定義することができます。文字列を入力して、パスワードを設定します。ユーザーパスワードは、システムへの不正アクセスを防止します。

Skip Password on WOL

Wake On LAN でのブート時に user パスワードを省略するか、入力する必要があるかを指定します。

Disabled

OS のブート時に User パスワードをキーボードで入力する必要があります。

Enabled

Wake On LAN でのブート時に、user パスワードは無効になります。

FLASH Write

BIOS システムへの書き込み保護を設定します。

Disabled

BIOS システムへの書き込みはできません。Flash-BIOS アップデートはできません。

Enabled

BIOS システムへ書き込みできます。Flash-BIOS アップデートは可能です。

6 Power メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

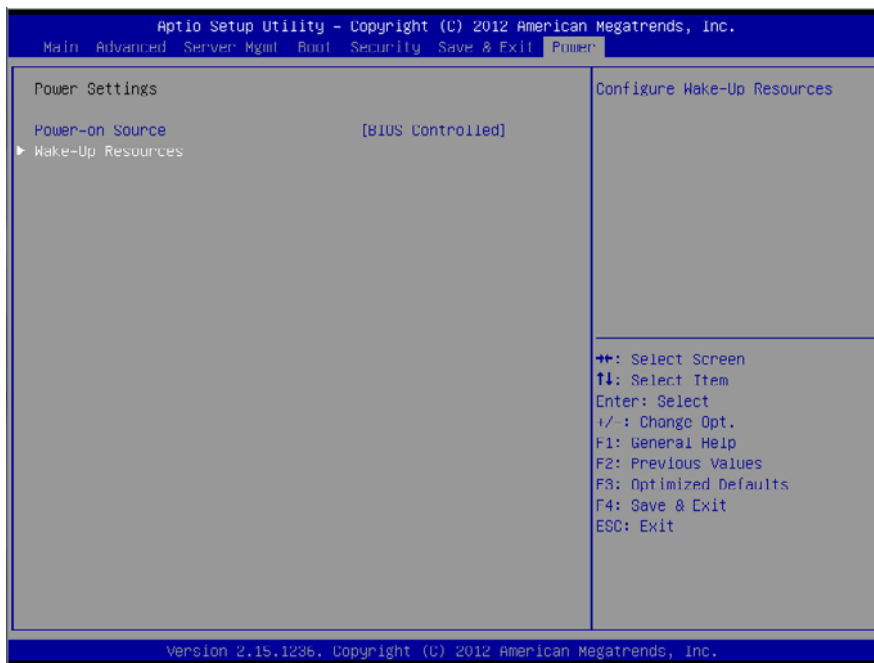


図 5: 「Power」メニューの例

Power-on Source

システムの電源管理機能を BIOS と ACPI OS のどちらで管理するかを指定します。

BIOS Controlled

電源管理機能は BIOS によって管理されます。

ACPI Controlled

電源管理機能は ACPI OS によって管理されます。

6.1 Wake-Up Resources

LAN

システムボードまたは拡張カード上の LAN コントローラを経由してシステムの電源を入れることができるようにするかの設定です。

Disabled

LAN コントローラを経由してシステムの電源を入れることはできません。

Enabled

LAN コントローラを経由してシステムの電源を入れることができます。

Wake On LAN boot

ネットワーク信号によって電源を入れた場合のシステム動作を指定します。

Boot Sequence

システムは LAN 経由で電源を入れた場合、「Boot」メニューで指定されたデバイスシーケンスに従って起動します。

Force LAN Boot

システムは LAN 経由で電源を入れた場合、リモートで LAN から起動します。

7 Server Mgmt メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

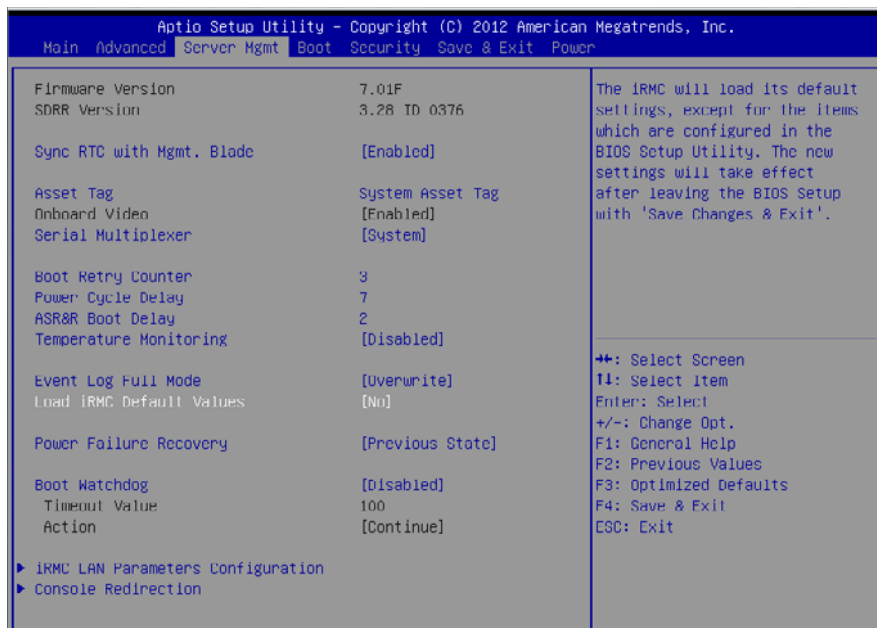


図 6: Server Mgmt メニューの例

Asset Tag

SMBIOS Type 3 の「*Asset Tag*」フィールドを表示します（システム本体またはシャーシ）。「*Asset Tag*」を変更または挿入するには、このセッアップオプションを選択して **[Enter]** キーを押します。ウィンドウが開き、文字列を入力したり、既存の文字列を変更したりすることができます。英数字のみを入力できます。

Onboard Video

オンボードビデオコントローラを使用可能かどうかを指定します。

Auto

外部ビデオアダプタが取り付けられている場合、オンボードビデオコントローラは無効です。

Enabled

オンボードビデオコントローラは常に有効です。

Serial Multiplexer

システムでシリアルインタフェースを使用できるかどうかを指定します。

System

システムまたは OS でシリアルインタフェースを使用できます。

iRMC

iRMC でのみシリアルインタフェースを使用できます。OS では、このシリアルインタフェースを使用できません。

Boot Retry Counter

OS システムの最大ブート試行回数を指定します。ブートの試行が失敗するたびに、「*Boot Watchdog*」で設定した時間の経過後、システムがリブートされます。その他の重大なシステムエラーが発生した場合も、システムがリブートされ、カウンターの値が減少します。最後の試行後、システムは最終的に電源が切られます。

指定できる値は以下のとおりです。0 ～ 7（再試行可能回数）

☐ キーまたは ☐ キーを押すと、この値を増減できます。

Power Cycle Delay

システムの電源切断から電源再投入までの最小必須経過時間を指定します。

指定できる値は 0 ～ 15 秒です。

☐ キーまたは ☐ キーを押すと、この値を増減できます。

ASR&R Boot Delay

エラー（気温が高すぎるなど）が原因でシステムがシャットダウンした後のシステム起動までの時間を指定します。システムは、設定した待ち時間の経過後に、起動されます。

指定できる値は 1 ～ 30 分です。

☐ キーまたは ☐ キーを押すと、この値を増減できます。

Temperature Monitoring

周辺温度またはプロセッサの温度が上限値を超えた場合に、システムの動作を停止させるかどうかを指定します。これによって、システムやデータの破損を防止します。サーバ管理ソフトが OS 上で動作している場合は、温度監視機能からサーバ管理ソフトに管理権が移動し、温度値が臨界レベルに達すると、システムをシャットダウンします。

「*Boot Retry Counter*」に基づいて、「*ASR&R Boot Delay*」で設定した時間の経過後にシステムは再び動作可能になります。この期間にシステムを再び冷却する必要があります。

Disabled

温度が上限値を超えた場合に、システムの電源は自動的に切断されません。

Enabled

温度が上限値を超えた場合に、システムの電源は自動的に切断されます。

Event Log Full Mode

システムイベントログを上書き可能にするかどうかを指定します。

Overwrite

システムイベントログが一杯になると、システムイベントログ内の最も古いエントリが追加のイベントによって上書きされます。新しいイベントが古いイベントよりも重要な場合に指定します。

Maintain

システムイベントログが一杯になると、これ以上イベントは入力されません。最初にシステムイベントログファイルを消去しなければ、さらにイベントを入力することはできません。古いイベントが新しいイベントよりも重要な場合に指定します。

Load iRMC Default Values

iRMC デフォルト値がロードされるかどうかを指定します。

No

何も行われません。

Yes

「*Save Changes and Exit*」を選択して BIOS セットアップユーティリティを終了すると、iRMC デフォルト値がロードされます。iRMC に影響を与える BIOS セットアップユーティリティのいかなる設定も、この設定によって失われません。この設定は、iRMC デフォルト値のロード後に iRMC に送信されます。したがって、該当する値が再度上書きされます。

デフォルト値のロード後、この設定は自動的に「*No*」に設定されます。

Power Failure Recovery

停電後のシステムの再起動動作を指定します。

Always Off

システムは、ステータスチェックを行ってから電源を切断します。

Always On

システムは、ステータスチェックを行ってから電源を投入します。

UPS スケジュール運転の場合は、「*Always On*」に設定してください。「*Always On*」に設定しないと、設定された電源投入時刻になってもサーバの電源が入らない場合があります。

Previous State

システムは、ステータスチェックを行ってから、停電発生前のモード (*On* または *Off*) を返します。



短い初期化プロセスで、すべての起動ソースが再設定されます。システムは、LAN などを経由して起動できます。「*Disabled*」が設定されると、システムを起動できるのは電源ボタンのみとなります。

Sync RTC with Mgmt. Blade

RTC をマネジメントブレードと同期するかどうかを指定します。

Disabled

RTC をマネジメントブレードと同期しません。

Enabled

RTC をマネジメントブレードと常に同期します。

Boot Watchdog

サーバ管理ソフト (ServerView Agent) が iRMC との接続を確立できない場合にシステムを再起動するかどうかを設定します。OS の起動が成功した後、ServerView Agent は、指定された期間内に iRMC との通信を開始します。

タイムアウトが発生すると、iRMC は起動エラーを想定し、このエラーからシステムを回復するためにシステムを再起動することができます。

Disabled

iRMC は *Boot Watchdog Timeout Value* によるシステムの再起動を行いません。iRMC が誤ってシステムを再起動しないようにするため、ServerView がインストールされていない場合はこの選択肢を使用してください。

Enabled

iRMC は OS 起動エラーを想定するため、*Boot Watchdog Timeout Value* でシステムを再起動します。



「Enabled」を設定すると、サーバが正しく動作しない場合があります。たとえば、指示なしに自動的にサーバの電源が切れたり、再起動する場合があります。

- ServerView Suite を使用してシステムを起動する場合は、システムに ServerView Agent がインストールされている場合でも、必ず *Boot Watchdog* を無効にしてください。この項目を有効にしてシステムを起動すると、サーバが正しく動作しない場合があります。たとえば、指示なしに自動的にサーバの電源が切れたり、再起動する場合があります。

- この機能を設定する場合は、ServerView Suite のマニュアルを参照してください。

Timeout Value

「*Boot Watchdog*」が「Enabled」になっている場合に、システムのリブートまでの時間を指定します。
指定できる値は 0 ～ 100 です。

0

時間監視が有効になります。

1...100

選択した時間（分単位）が経過した後、システムはリブートされます。

☐+ キーまたは ☐- キーを押すと、この値を増減できます。

Action

boot watchdog が動作した後に行う動作を指定します。

Continue

システムは引き続き動作します。

Reset

システムは、システムリセットによって再起動されます。

Power Cycle

システムは、電源切断 / 投入を行います。

Console Redirection

コンソールリダイレクションの設定に使用するサブメニュー（[52 ページ](#)の「[Console Redirection \(CR\)](#)」を参照）を呼び出します。

iRMC LAN Parameters Configuration

リモートマネジメントコントローラの設定に使用するサブメニュー
(53 ページ の「[iRMC LAN Parameters Configuration](#)」を参照) を呼び
出します。

7.1 Console Redirection (CR)

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件で
のみ使用できる設定があります。

Console Redirection

端末との通信に使用するインタフェースを指定します。

Disabled

コンソールリダイレクションは使用不能になります。

Serial 1

最初のシリアルインタフェースがこの装置によって使用されま
す。

Baud Rate

端末との通信に使用する転送速度を指定します。

この設定は、端末とサーバで同一である必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

9600, 19.2 K, 38.4 K, 57.6 K, 115.2 K

データは、設定した速度で端末に転送されます。

Protocol

割り当てられているコンソールのタイプを示します。

この設定は、端末とサーバで同一である必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

VT100, PC ANSI, VT100+, VT-UTF8

割り当てられているコンソールが、端末へのデータ転送に使用されま
す。

Flow Control

この設定は、インタフェースを介した転送の制御方法を指定します。

この設定は、端末とサーバで同一である必要があります。

None

転送をコントロールせずにインタフェースを動作させます。

CTS/RTS

転送コントロールは、ハードウェアで行います。このモードが、ケーブルでもサポートされている必要があります。

7.2 iRMC LAN Parameters Configuration

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

Management LAN

iRMC で使用できる LAN インターフェースを有効にします。

Disabled

iRMC LAN インターフェースは無効になります。

Enabled

iRMC LAN インターフェースは有効になります。

Management LAN Port[ManagementLANPort]

iRMC で使用できる LAN インタフェースを指定します。iRMC とオンボード LAN が LAN インタフェースを共有できるか、iRMC が専用の LAN インタフェースを使用できます。Management LAN インタフェースは、スパナアイコンで示されます。

Management

iRMC は専用の LAN インタフェースを使用します。

Shared

iRMC とオンボード LAN は、LAN インタフェースを共有します。

Management LAN Speed

監視用 LAN ポートの速度を指定します。

Auto

速度は LAN コントローラによって自動的にネゴシエートされません。

100 Mbit/s Full Duplex

最大速度 100 Mbit/s。双方向での同時通信が可能です。

100 Mbit/s Half Duplex

最大速度 100 Mbit/s。一度に単方向での通信のみが可能です。

10 Mbit/s Full Duplex

固定速度 10 Mbit/s。双方向での同時通信が可能です。

10 Mbit/s Half Duplex

固定速度 10 Mbit/s。一度に単方向での通信のみが可能です。

1000 Mbit/s

最大速度 1000 Mbit/s。

Management VLAN

IEEE 802.3 Ethernet の IP セッションにより、IPMI の IEEE 802.1q VLAN（仮想 LAN）ヘッダのサポートを有効にします。

Enabled

IEEE 802.3 Ethernet の IP セッションにより、IPMI の IEEE 802.1q VLAN（仮想 LAN）ヘッダのサポートを有効にします。

Disabled

IEEE 802.3 Ethernet の IP セッションにより、IPMI の IEEE 802.1q VLAN（仮想 LAN）ヘッダのサポートを無効にします。

VLAN ID

VLAN ヘッダの値にタグを付けます。

指定できる値は 0 ～ 4094 です。

VLAN Priority

使用する VLAN ユーザプライオリティフィールドの値を指定します。

指定できる値は 0 ～ 7 です。

iRMC IPv4 LAN Stack

IPv4 LAN スタックを iRMC に使用できるかどうかを設定します。

Disabled

IPv4 LAN スタックは iRMC に使用できません。

Enabled

IPv4 LAN スタックは iRMC に使用できます。

IP configuration

iRMC に対する DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）のサポートを使用するかどうかを指定します。DHCP ネットワークプロトコルを使用してネットワーク内の DHCP サーバから iRMC に IP アドレスを自動的に割り当てることができます。

use DHCP

iRMC に対する DHCP のサポートが使用されます。DHCP サーバから、ローカル IP アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイアドレスを要求されます。

use static configuration

iRMC に対する DHCP のサポートは無効になります。ローカル IP アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイアドレスを手動で入力する必要があります。

IP Address

iRMC の IP アドレスを指定します。
0 ~ 255 の数値を指定できます。

Subnet Mask

iRMC のサブネットマスクを指定します。OS と同じサブネットマスクを使用してください。
0 ~ 255 の数値を指定できます。

Gateway Address

iRMC のゲートウェイアドレスを指定します。
0 ~ 255 の数値を指定できます。

iRMC IPv6 LAN Stack

IPv6 LAN スタックを iRMC に使用できるかどうかを設定します。

Disabled

IPv6 LAN スタックは iRMC に使用できません。

Enabled

IPv6 LAN スタックは iRMC に使用できます。

Link Local address

IPv6 アドレスを示します。IP アドレスは、コロンで区切られたブロックに区切られます。

IPv6 Gateway

IPv6 ゲートウェイアドレスを示します。IP アドレスは、コロンで区切られたブロックに区切られます。

8 Boot メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

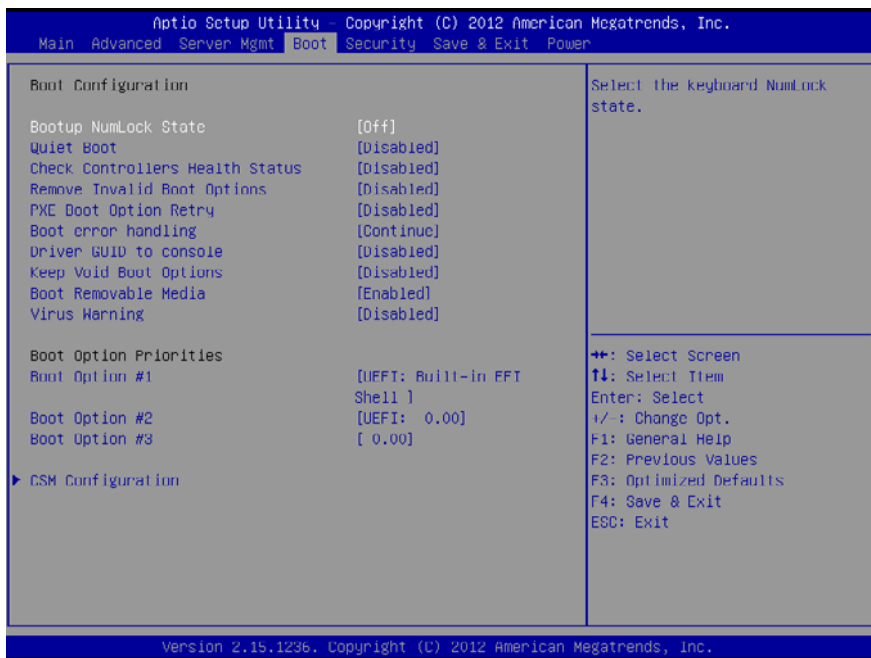


図 7: 「Boot」メニューの例

このメニューを使用して、システムを起動するドライブのシーケンスを定義できます。最大 8 つのドライブ（および USB インターフェースなども）をリストできます。

操作については、このメニューのヘルプ領域を参照してください。

Bootup NumLock State

システムが起動したときに NumLock 機能の設定を指定します。
NumLock はキーボードのテンキーの使用方法を制御します。

On

NumLock は有効で、キーボードのテンキーを使用できます。

Off

NumLock は無効で、キーボードのテンキーのカーソル機能を使用できます。



キーボードの Num 表示ランプは現在の「Bootup NumLock State」を報告します。キーボードの [Num] キーで、On / Off の切り替えができます。

Quiet Boot

POST 起動時の情報ではなく、ブートロゴが画面に表示されます。

Disabled

POST 起動時の情報が画面に表示されます。

Enabled

ブートロゴ表示されます。

Check Controllers Health Status

PCIe デバイスの UEFI ドライバオプション ROM が Controller Health インターフェースをサポートしている場合は、UEFI FW は、UEFI FW が管理しているデバイスのヘルスステータスを UEFI ドライバオプション ROM にクエリすることができます。

Disabled

コントローラのヘルスステータスは、UEFI FW でチェックされません。

Enabled

UEFI FW は、コントローラのヘルスステータスをチェックします。

PXE Boot Option Retry

ユーザの入力を待たずに、NON-EFI ブートオプションを再試行するかどうかを指定します。

Disabled

ユーザの入力を待たずに、NON-EFI ブートオプションは再試行されません。

Enabled

ユーザの入力を待たずに、NON-EFI ブートオプションが継続的に再試行されます。

Boot error handling

エラーの検出時にシステムのブートプロセスを一時停止し、システムを停止するかどうかを指定します。

Continue

システムブートは一時停止しません。エラーは可能な限り無視されます。

Pause and wait for key

エラーが POST 中に検出された場合、システムブートは一時停止します。

Remove Invalid Boot Options

システムに接続されていないデバイスの UEFI ブートオプションが「Boot Option Priority」リストから削除されるかどうかを指定します。

Disabled

UEFI ブートオプションは「Boot Option Priority」から削除されません。

Enabled

UEFI ブートオプションは「Boot Option Priority」から削除されます。

Keep Void Boot Options

システムに接続されていないデバイスの UEFI およびレガシーブートオプションが「Boot Option Priority」リストから削除されるかどうかを指定します。有効な場合は、無効なブートオプションが「Boot Option Priority」リストに保存されます。これは、一時的にシステムから切り離されているデバイスのブート順位を維持する場合に便利です。

セットアップの 2 つの選択肢「Keep Void Boot Options」と「Remove Invalid Boot Options」の違いは次の通りです。

「Keep Void Boot Options」は、システム BIOS によって作成された UEFI およびレガシーブートオプションのポリシーのみを変更します。

「Remove Invalid Boot Options」は、BIOS 以外（UEFI Windows など）で作成された UEFI ブートオプションのポリシーのみを変更します。

Disabled

ブートオプションは「Boot Option Priority」から削除されます。

Enabled

ブートオプションは「Boot Option Priority」から削除されません。

Driver GUID to console

開始された各 UEFI ドライバの GUID (Globally Unique Identifier) をコンソールに通知するかどうかを指定します。システムスタートアップの初期段階での問題を調査する際に、役に立ちます。

Disabled

ドライバ GUID はコンソールに通知されません。

Enabled

ドライバ GUID はコンソールに通知されます。

Boot Removable Media

USB メモリなどのリムーバブルデバイスへのブートのサポートが可能かどうかを指定します。

Disabled

リムーバブルデバイスへのブートは非アクティブ化されます。

Enabled

リムーバブルデバイスへのブートはアクティブ化されます。

Virus Warning

前回のシステムの起動以降何らかの変更が行われているかどうかを確認するために、ハードディスクドライブのブートセクタをチェックします。ブートセクタが変更されていて、その変更理由が不明な場合は、適切なウイルス検出プログラムを実行する必要があります。

Disabled




ブートセクタはチェックされません。

Enabled

前回のシステムの起動以降ブートセクタが変更された場合（たとえば、OS を新しくしたり、ウイルスの攻撃を受けたなど）に警告を表示します。「Confirm」を選択して変更を受け入れるか、この機能を無効にするまで、画面に警告が表示されます。

Boot Option Priorities

現在のブート順位が表示されます。

- ▶ ブート順位を変更するデバイスを選択するには、カーソルキー  または  を押します。
- ▶  キーを押して、ブート順位を変更するデバイスを選択します。

- ▶ 選択したデバイスをブート順位から削除するには、**[Enter]** キーを押して「*Disabled*」を選択します。

8.1 CSM Configuration

CSM (Compatibility Support Module) のサブメニューを開いて設定します。



このサブメニューは、「Setup/Secure Boot Configuration」の「Secure Boot Control」メニューが無効な場合のみ使用できます。

Launch CSM

CSM (Compatibility Support Module) を実行するかどうかを指定します。CSM がロードされている場合のみ、レガシーオペレーティングシステムを起動できます。

Enabled

Legacy または UEFI オペレーティングシステムを起動できるように、CSM が実行されます。

Disabled

UEFI オペレーティングシステムのみ起動できるように、CSM は実行されません。

Boot option filter

どちらのドライブからブートできるかを指定します。

UEFI and Legacy

UEFI OS ドライブおよび Legacy OS ドライブからブートできます。

Legacy only

Legacy OS ドライブからのみブートできます。

UEFI only

UEFI OS ドライブからのみブートできます。

Launch PXE OpROM Policy

起動する PXE Option ROM を指定します。PXE ブートの場合は、使用可能な通常の (Legacy) PXE ブートおよび UEFI PXE ブートがあります。

Do not launch

Option ROM は起動されません。

UEFI only

UEFI Option ROM のみ起動されます。

Legacy only

Legacy Option ROM のみが起動します。

Launch Storage OpROM policy

起動する Storage Option ROM を指定します。

Do not launch

Storage Option ROM は起動されません。

UEFI only

UEFI Storage Option ROM のみ起動されます。

Legacy only

Legacy Storage Option ROM のみ起動されます。

Launch Video OpROM policy

起動する Video Option ROM を指定します。

UEFI only

UEFI Video Option ROM のみ起動されます。

Legacy only

Legacy Video Option ROM のみ起動されます。

Other PCI device ROM priority

ネットワーク、マストレージデバイス、ビデオ以外の、デバイスで起動する Option ROM を指定します。

UEFI OpROM

UEFI Option ROM のみ起動されます。

Legacy OpROM

Legacy Option ROM のみが起動します。

9 Save & Exit メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。

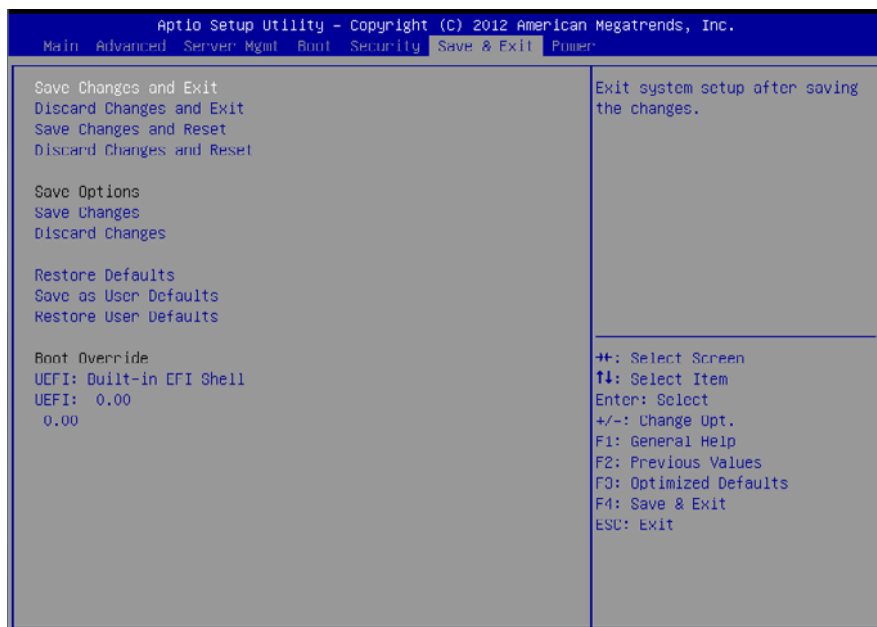


図 8: 「Save & Exit」メニューの例

Save Changes and Exit

現在のメニューエントリを保存し、BIOS セットアップユーティリティを終了するには、「*Save Changes and Exit*」を選択し、「*Yes*」を選択します。

新しい設定が有効になり、変更されたオプションでリセットが不要であれば POST が継続します。

Discard Changes and Exit

「*Discard Changes and Exit*」を選択し、「*Yes*」を選択すると、BIOS セットアップユーティリティの起動後、または「*Save Changes*」の呼び出し後に行った変更が破棄されます。

BIOS セットアップユーティリティが閉じられ、POST が継続します。

Save Changes and Reset

現在のメニューエントリを保存し、BIOS セットアップユーティリティを終了するには、「*Save Changes and Reset*」を選択し、「*Yes*」を選択します。

リセットが開始され、新しい設定が有効になります。

Discard Changes and Reset

「*Discard Changes and Reset*」を選択し、「*Yes*」を選択すると、BIOS セットアップユーティリティの起動後、または「*Save Changes*」の呼び出し後に行った変更が破棄されます。

BIOS セットアップユーティリティが閉じられ、リセットが開始されます。

Save Options - Save Changes

「*Save Changes*」を選択し、「*Yes*」を選択すると、BIOS セットアップユーティリティを終了せずにこれまでに行った変更が保存されます。

Save Options - Discard Changes

「*Discard Changes*」を選択し、「*Yes*」を選択すると、BIOS セットアップユーティリティを終了せずに、IOS セットアップユーティリティの起動後、または「*Save Changes*」の呼び出し後に行った変更が破棄されます。

Restore Defaults

すべての BIOS セットアップユーティリティメニューをリセットしてデフォルト値を使用するには、「*Restore Defaults*」を選択し、「*Yes*」を選択します。

これらの設定で BIOS セットアップユーティリティを終了するには、「*Save Changes and Exit*」を選択し、「*Yes*」を選択します。




Save as User Defaults

「*Save as User Defaults*」を選択した後「*Yes*」を選択して、これまで行った変更をデフォルトとして保存します。

Restore User Defaults

すべての BIOS セットアップユーティリティメニューをリセットしてユーザデフォルト値を使用するには、「*Restore User Defaults*」を選択し、「*Yes*」を選択します。これらの設定で BIOS セットアップユーティリティを終了するには、「*Save Changes and Exit*」を選択し、「*Yes*」を選択します。

Boot Override

カーソルキー  または  を使用して OS を起動するドライブを選択します。 を押して、選択したドライブからブートを開始します。

10 Flash BIOS アップデート

Flash BIOS アップデートを実行するには、最初に、必要なファイルをインターネットからダウンロードする必要があります。



注意！

BIOS はフラッシュメモリデバイスに保存されます。Flash BIOS アップデート手順でエラーが発生すると、フラッシュメモリ内の BIOS イメージが破壊される場合があります。破壊された場合の BIOS の復元は、「Flash Memory Recovery Mode」を使用する以外に方法はありません（69 ページの「Flash Memory Recovery Mode」を参照）。これでもできない場合は、フラッシュメモリデバイスを交換する必要があります。カスタマサポート「Service Desk」にお問い合わせください。詳細は、「Service Desk」リーフレットを参照してください。



日本市場の場合は「サポート＆サービス」を参照してください。

- ▶ 万が一に備えて、BIOS セットアップユーティリティの設定を書き留めておきます。
通常、Flash BIOS アップデートは、BIOS セットアップユーティリティの設定に影響を与えません。

- ▶ 次のインターネットページを呼び出します：<http://support.ts.fujitsu.com>



日本市場の場合は以下の URL をご使用ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/>

- ▶ システムを「Select Product」から選択するか、または「Product Search by Serial-/Identnumber」からシステムを探します。
- ▶ 「Driver & Downloads」をクリックして、OS を選択します。
- ▶ *Flash-BIOS* を選択します。

Flash BIOS アップデート - ASP for Windows

- ▶ *Flash BIOS Update - ASP for Windows* を選択します。
- ▶ Windows 上の Flash BIOS アップデートの *Flash BIOS BX924 S4 (ASP for Windows)* ファイルをダウンロードします。

または

- ▶ *Flash BIOS Update - ASP for Linux* を選択します。
- ▶ Linux 上の Flash BIOS アップデートの *Flash BIOS BX924 S4 (ASP for Linux)* ファイルをダウンロードします。

Flash BIOS アップデート - USB Image

- ▶ 使用している OS を選択できない場合、任意の OS を選択して、Flash BIOS アップデート用の *BX924 S4 / D3143-B100 Flash BIOS for USB Image* ファイルを PC にダウンロードします。

Windows または Linux 上の Flash BIOS アップデート

- ▶ 詳細は、『Local System Update for PRIMERGY Servers』を参照してください。
- ▶ Flash BIOS アップデートの後、BIOS セットアップユーティリティの設定を確認してください。必要に応じて、設定をし直します。

USB メモリ内の Flash BIOS アップデート

- ▶ 起動可能な USB メモリがあることを確認してください。



USB メモリが起動可能ではない場合、次の手順に従います。

- ▶ USB メモリが、USB イメージファイルをダウンロードするシステムの USB ポートに差し込まれています。
- ▶ 次の手順に従います。

BIOS アップデートファイルを保存する USB メモリが必要です。
USB メモリ状のデータは完全に消去され、上書きされます。

あらかじめ、すべてのデータを保存したことを確認します。

- ▶ 「*BX924 S4 / D3143-B100 Flash BIOS for USB Image*」からダウンロードした zip ファイルを展開します。
- ▶ 展開したファイルの *.exe ファイルをダブルクリックします。

- ▶ 画面上の手順に従って、USB イメージファイルが USB メモリにコピーされます。
- ▶ 挿入した起動可能な USB メモリからシステムをブートします。
- ▶ 画面に出力が表示されるまで待ちます。
- ▶ ファンクションキー **[F12]** を押して、矢印キー **[↑]** と **[↓]** を使用して起動可能な USB メモリを選択します。
- ▶ `cd DOS` でディレクトリを変更して、コマンド `DosFlash` で Flash BIOS アップデートを開始します。画面に表示される手順に従います。
- ▶ Flash BIOS アップデートの後、システムは自動的に再起動します。システムは、新しい BIOS リビジョンでブートされます。
- ▶ BIOS セットアップユーティリティの設定を確認します。必要に応じて、設定をし直します。

10.1 Flash Memory Recovery Mode

- ▶ 「*USB メモリ内の Flash BIOS アップデート*」の項に記載したように、起動可能な USB メモリを用意します。
- ▶ システムの電源を切り、サーバブレードをシステムユニットから取り外します。
- ▶ シャーシを開き、システムボード上のジャンパ/DIP スイッチを使用して「Recovery」(RCV) に設定します。

 システムボードのジャンパ/DIP スイッチの詳細は、『アップグレード & メンテナンスマニュアル』を参照してください。

- サーバブレードをシステムユニットに取り付け、挿入した起動可能な USB メモリでシステムをブートします。
- 挿入した起動可能な USB メモリからシステムをブートします。
- `cd DOS` でディレクトリを変更して、コマンド `DosFlash` で Flash BIOS アップデートを開始します。画面に表示される手順に従います。
- 画面上でアップデート処理が完了するのを確認します。リカバリアップデートには、数分かかることがあります。
- システムの電源を切り、サーバブレードをシステムユニットから取り外します。
- USB メモリを取り外します。

Flash BIOS アップデート

- 初期位置に変更されていた「リカバリ」(RCV) ジャンパ/DIP スイッチを元に戻します。
- サーバブレードをシステムユニットに取り付けて、システムの電源を入れます。
システムは、新しい BIOS リビジョンでブートされます。
- BIOS セットアップユーティリティの設定を確認します。必要に応じて、設定をし直します。

索引

A

Above 4G Decoding 17, 18
Access Level 14
Action 51
Active Processor Cores 20
Adjacent Cache Line Prefetch 22
Administrator Password 42
ASPM Support 17
ASR&R Boot Delay 48
Asset Tag 47

B

Baud Rate 52
BIOS セットアップ
 メニューの概要 7
 終了する 12
 開く 9
Boot メニュー
 直ちに開く 9
Blade 50
Boot error handling 59
Boot option filter 62
Boot Option Priorities 60
Boot Override 66
Boot Removable Media 60
Boot Retry Counter 48
Boot Watchdog 50
Bootup NumLock State 58

C

Change Settings 37
Check Controller Health Status 58
Console Redirection 52, 51
CPU C3 Report 25
CPU C6 Report 26
CPU C7 Report 26
CPU x Status 39
CPU Status 16
Current TPM Status Information 20

D

DCU IP Prefetcher 22
DCU Streamer Prefetcher 22
DDR Performance 29
Device Settings 37
DIMM-xx 35
Discard Changes and Exit 65
Discard Changes and Reset 66
DMI Control 18
DRAM Maintenance 29
Driver GUID to console 60

E

Energy Performance 24
Enhanced SpeedStep 23
Event Log Full Mode 49
Execute Disable Bit 21

F

Fast Patrol Scrub 30
Flash Write 43
Flow Control 52
Frequency Floor Override 27

G

Gateway Address 55

H

Hardware Prefetcher 21
High Precision Timer 34
Hyper-Threading 20

I

Intel (R) VT-d (Virtualization Technology) 23
IP Address 55
IP configuration 54
IPv4 PXE Support 38
IPv6 Gateway 55
IPv6 PXE Support 38
iRMC IPv4 LAN Stack 54

iRMC IPv6 LAN Stack 55

iRMC LAN Parameters
Configuration 52

K

Keep Void Boot Options 59

L

Launch CSM 62

Launch PXE OpROM Policy 62

Launch Slot n OpROM 40

Launch Storage OpROM policy 63

Launch Video OpROM policy 63

Limit CPU Maximum 21

Link Local Address 55

Load iRMC default Values 49

M

Management LAN Speed 53

Management VLAN 54

Management LAN 53

Management LAN Port 53

Mass Storage Device(s) 32

Memory Mode 28

N

Network Stack 38

NUMA 28

O

Onboard CNA 34

Onboard CNA OpROM 34

Onboard SAS/SATA (SCU) 33

Onboard USB Controllers 31

Onboard Video 47

Other PCI device ROM priority 63

Override OS Energy
Performance 24

P

P-STATE Coordination 25

Package C State limit 26

Patrol Scrub 29

PCI Slot n 40

Pending TPM operation 19

Power Failure Recovery 49

Power Technology 23

Power-on Source 45

Power Cycle Delay 48

Protocol 52

PXE Boot Option Retry 58

PXE boot wait time 38

Q

QPI Link Frequency Select 26

QPI Link1 Disable 27

Quiet Boot 58

R

Refresh Rate Multiplier 30

Remove Invalid Boot Options 59

Restore Defaults 66

Restore User Defaults 66

S

SAS/SATA OpROM 33

SAS/SATA ドライバー 33

Save as User Defaults 66

Save Changes and Exit 65

Save Changes and Reset 66

Save Options - Discard Changes 66

Save Options - Save Changes 66

Serial Port 37

Serial Multiplexer 48

Skip Password on WOL 42

Slot n LAN1 36

Slot n LAN2 36

Socket 0 CPU Information 20

Subnet Mask 55

Super IO Chip 37

Synch RTC with Mgmt. 50

System Information 13

System Language 13

System Time 14

System Date 14

T

Temperature Monitoring 48

Timeout Value 51

TPM State [19](#)
TPM Support [19](#)
Turbo Mode [24](#)

U

USB Legacy Support [31](#)
USB Port Control [32](#)
USB Devices [31](#)
User Password [42](#)
Utilization Profile [25](#)

V

Virus Warning [60](#)
VLAN ID [54](#)
VLAN Priority [54](#)

W

Wake-up Resources
 LAN [46](#)
 Wake On LAN boot [46](#)

い

インテル Virtualization
 Technology [23](#)

